

題名	作者	コメント	評価
ハリー ポッター アズカバンの 囚人	J.K ローリング 松岡 佑子訳	悪いのと良いのがハッキリしてるのは、こういう物語の特徴なんだけど、事が子供で学校ときた日には、随分身近に感じてしまう。もっと不思議な世界だったり、あやふやだったりしたほうが、私は好き。魔法より学校を強く感じた。	
ANOTHER MONSTER	WERNER WEBER 浦沢 直樹共訳 長崎 尚志 訳	ヨーロッパの歴史は、奥が深すぎて、到底私達にはわからないと思いました。本当にあった話か？そんな訳ないのに・・・解った事も多かったけど、「モンスター」での疑問が、新たな疑問となってしまいました。	
黄金の島	真保 裕一	どうしたの？幸せじゃあないの？昔、エマニエル・ウンガロが、幸せじゃあないと、色が暗くなってたのと同じで、暗い・・・あまりに暗い・・・辛いくらい。しっかりしょうぜ日本人。	(すごく おまけ)
降魔王	高橋 克彦	わかっている人は、わかかっていて読めるのだろうけど、途中からなので、独りよがりっぽくってつまんない。内輪でやってって感じが、内容にも出ていて、私は貴方たちの仲間とは違うから、じゃあ、と、言ってしまいました。でもとりあえず、違うのも読んでみたい。	
模倣犯(上)	宮部みゆき	はまった。自分が思っている事は、なかなか言葉や文にならなくて、まして人にも伝わらない。なのに宮部みゆきは、私の思っている事、考えている事を言葉にしてしまう。具体的に出来ない気持ちをまとめてしまう。被害者や加害者の事まで・・・その立場になってみないと、判らない事はあると思うけど、それでも私の気持ちにぴったりしていて、引き込まれてしまう。一つ一つが丁寧で、何一つはずす事は出来ない。読み出すと止まらない。	